

26年1月分 木材チップの荷動き・価格先行き動向調査 1

1. 調査実施期間 平成25年 12月20日～ 26年1月10日

2. 調査実施方法

全国の木材チップ工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
1月分の回答企業数は12社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

(1) チップ用国産原木の荷動き動向 Weight. D. I.

品目		26/1月	2月	3月
入荷動向	スギ・ヒノキ	△ 25.0	△ 35.0	△ 30.0
	マツ	△ 44.4	△ 44.4	△ 33.3
	広葉樹	△ 33.3	△ 29.2	△ 20.8
消費動向	スギ・ヒノキ	22.2	11.1	11.1
	マツ	12.5	12.5	12.5
	広葉樹	0.0	9.1	9.1
在庫動向	スギ・ヒノキ	△ 35.0	△ 50.0	△ 45.0
	マツ	△ 38.9	△ 55.6	△ 50.0
	広葉樹	△ 50.0	△ 41.7	△ 41.7

スギ・ヒノキ、マツ及び広葉樹の原木入荷は減少傾向で推移。
スギ・ヒノキ及びマツ原木の消費は増加傾向で推移、広葉樹は1月の横ばいが2, 3月はやや増加に。
スギ・ヒノキ、マツ及び広葉樹の原木在庫は減少傾向で推移。

(2) チップ用国産原木購入価格動向 Weight. D. I.

品目	26/1月	2月	3月
スギ・ヒノキ	10.0	10.0	10.0
マツ類	△ 5.6	0.0	0.0
広葉樹	0.0	0.0	0.0

スギ・ヒノキの原木価格はやや強保合で推移、マツは1月のやや弱保合が2, 3月には横ばいに、広葉樹は横ばいで推移。

モニターからのコメント

(原木荷動き)・仕入は、国有林(特にスギ)の入荷のピークは1月なので、その後の針葉樹の入荷が心配、広葉樹業者は独自に行っているので入荷に心配ない。在庫は天候順調で入荷増。

- ・仕入はスギ・ヒノキは山林作業員の問題で出材が減少(山林出材場所の減)。マツはマツ原木の山林減少、マツ材の用途減少で出材が悪い。広葉樹は変動なし。消費は大きな動きなし。在庫は入荷減で減少。
- ・広葉樹原木の入荷が例年より少ない。スギ原木が高騰し素材業者が広葉樹を伐採していない様子。消費は予想以上の広葉樹入荷減になり大幅な減少となる。広葉樹在庫は先の見通しが立たない。
- ・仕入れは雨の影響が予想される。消費・在庫は変動なし。
- ・針葉樹は出材減少、FIT用に岐阜、三重の業者がパルプ用材を増集荷の様様。広葉樹は開発工事の増加、針葉樹山から広葉樹山への切り替えにより出材増。針葉樹チップ、広葉樹チップとも生産増のため消費量も増加。針葉樹原木は入荷減により在庫も減少、広葉樹原木は横ばい。
- ・スギ・ヒノキは民有林材が例年並み入荷、市場からの材は小径木まで製材所に売れているとのことで例年より少なめ。広葉樹は支障木主に変化なし。マツは少量。スギ・ヒノキ、広葉樹とも例年より多く消費、工場稼働率高くしばらくはこの状態続きそう。原木消化多いため在庫はいずれも減少してきているが、昨年からの在庫があるため不足感はない。
- ・お正月休みと降雪のため1月前半は原木の入荷は0、1月後半より少しづつ入荷予定。
- ・スギ原木は市場価格値上がりしパルプ用材も増加傾向にあった。広葉樹原木はスギ原木価格値上がりに伴い素材生産切り替えによって減少傾向。スギの消費は製品の動きが減り増加から横ばいに、広葉樹は原木仕入れに見合った生産。

・スギ・ヒノキ及び広葉樹は前月同様仕入れは減少、消費は横ばい、在庫は減少。

(原木価格)・価格変わらず、仕入値変わらず。

- ・変動なし。
- ・チップ価格の値上げなしでは広葉樹原木価格の値上げは考えられない。
- ・変動なし。
- ・針葉樹原木はFIT用に買い占めの情報。チップ用は横ばいもFIT用に引っ張られて上がり基調。
- ・在庫水準下がっているが在庫多く、仕入れ価格に変更なし。FIT用国有林システム販売が高値になっている様子で、当社では追いついていけないため、割り当てはなし、民有林間伐材でやっとなり発電向け納入価格にあわせている状態なので不可解。
- ・スギ原木は現在は値上がりだが徐々に落ち着き、広葉樹原木は変動なしと予想。
- ・スギ・ヒノキ燃料用チップ増産によりやや上昇。

26年1月分 木材チップの荷動き・価格先行き動向調査 2

4. 調査結果の概要

(1) 木材チップの荷動き動向 Weight. D. I.

品目		26/1月	2月	3月
生産動向	スギ・ヒノキ	△ 5.6	△ 5.6	11.1
	マツ類	△ 25.0	△ 12.5	△ 6.3
	広葉樹	△ 13.6	0.0	0.0
出荷動向	スギ・ヒノキ	0.0	△ 5.0	10.0
	マツ類	0.0	0.0	5.6
	広葉樹	△ 8.3	0.0	0.0
在庫動向	スギ・ヒノキ	△ 37.5	△ 43.8	△ 56.3
	マツ類	△ 42.9	△ 50.0	△ 50.0
	広葉樹	△ 50.0	△ 50.0	△ 50.0

スギ・ヒノキチップの生産は1,2月の減少が3月には増加に、マツは減少傾向で推移、広葉樹は1月の減少が2,3月は横ばいで推移。

スギ・ヒノキチップの出荷は1月の横ばいが2月の減少を経て3月には増加に、マツは1,2月の横ばいが3月にはやや増加に、広葉樹は1月の減少が2,3月は横ばいに。
スギ・ヒノキ、マツ及び広葉樹チップの在庫はいずれも減少傾向で推移。

(2) 木材チップ出荷価格動向(自社サイロ下渡し)W.

品目	26/1月	2月	3月
スギ・ヒノキ類	0.0	0.0	0.0
マツ類	△ 6.3	△ 6.3	△ 6.3
広葉樹	0.0	0.0	0.0

スギ・ヒノキ及び広葉樹チップ価格は横ばいで推移、マツはやや弱保合で推移。

モニターからのコメント

(木材チップ荷動き) ・出荷は、広葉樹入荷増になったが、2月、3月のベタ雪で入荷心配のため生産調整。

・生産及び出荷は、製紙用は減のまま横ばい、ボード用、燃料用減もなく安定。・チップ用広葉樹原木の入荷少なく製紙会社の注文通りの生産ができない。出荷は計画の30%減での出荷。広葉樹チップの在庫はない。

・変動なし。・一部のメーカーから生産増の要請あるも人員不足のため対応できず。広葉樹は原料あるだけ生産。針葉樹は増出荷基調、燃料チップは各社、冬場に入り使用量増加してきた。一部メーカーは年末年始も受け入れたので出荷増加。木くず受入制限は緩和。針葉樹チップ及び燃料チップ在庫は減少、広葉樹チップは在庫なし。・針葉樹、広葉樹とも例年より増産、正月に製材工場からのチップ供給が減ったため、針葉樹増産依頼あったものの、これ以上の対応は不可能。FIT対応発電用は少量ながら出荷。チップの在庫はしていない。

・生産は製紙工場が予定通り稼働しており、毎月予定通り出荷する。・スギチップ加工製品/粗飼料・敷料の当月注文は減、広葉樹チップは取引先の在庫減に伴い生産割当は増えたものの原木入荷不足で入荷に見合った生産・出荷。スギチップは出荷減で在庫増、広葉樹チップは在庫なし。・スギ・ヒノキは生産は横ばい、出荷は減少、在庫も減少で前月と同様の状況。

(木材チップ価格) ・価格変わらず。

- ・変動なし。
- ・広葉樹チップ出荷価格は先月と変わらず。
- ・変動なし。
- ・針葉樹、広葉樹とも横ばい。
- ・全く変化なし。
- ・スギ・ヒノキ及び広葉樹の国内チップ価格は凍結状態。